

翻刻：『曙』1939年10月号第9巻第10号（全文）

野中モニカ（天理大学）

はじめに

本稿はブラジルサンパウロ州アラサツバ市カフェーズポリス植民地¹の日本人会が1939年に発行した日本語会報誌『曙』10月号第9巻第10号の全文翻刻に解説を加えたものである。

カフェーズポリス植民地に関して、野中（2018）は日本語会報誌二点（1939年1月発行『曙』第9巻第1号、1940年8月発行『曙』第10巻第4号）を論考の中心とし、植民地内における日本語教育の継続の試みから中止までの記述を取り上げ、日本人植民地における日本語教育中止と日本語教育空白期の開始を明らかにした。そこで扱った二点の一次資料は、野中（2019）及び野中（2020）で既に解説を加えた翻刻を行なっている。

本稿で取り上げた資料は、野中（2018）の執筆後に提供者より追加で提供された資料の中の一点であり、カフェーズポリス植民地についての継続研究としての意味合いを持つ。本資料では、カフェーズポリス植民地の日本人会の活動情報のみならず、植民地の情勢として家族構成や農作物、新聞・雑誌の購読数等の情報も含まれ、植民地全体の把握が可能となっている。戦前ブラジルの一日本人植民地の貴重な記録であり、ブラジルの日本人移民研究に寄与する可能性を持つ資料として、その翻刻・保存は研究の基礎的作業としての意味を持ち、非常に重要であると考えられる。

本稿の資料は全て手書きであり、複数の担当者によって書かれた様子が見られ、異なる字形が混在していた。また、漢字の旧字体や略字体、カタカナ・ひらがな使用の表記法等に統一が見られないため、本稿では凡例に従って統一した。

凡例

- ① 目次の項目毎に一行あけた。
- ② 改行、文頭の字下げ、語彙間の字空けは、原稿通りに従った。
- ③ 表紙、裏表紙、イラスト、囲み線の内容はそれぞれ「 」で記述し、その旨を（表紙）などのように右傍に注記した。
- ④ 旧字・異体字は基本的に新字体を用いた。
例：號→号 會→会 學→学 縣→県
- ⑤ 歴史的仮名遣い、変体仮名は原則として現代仮名遣いに改めた。
例：ゐ→い せう→しょう やう→よう ふ→う へ→え（助詞ではない場合）
- ⑥ 名前、地名などの固有名詞、また、言語表現に関わる俳句・短歌・詩は原文の字体を尊重し、原文ママとした。
- ⑦ ポルトガル語表記、カタカナによるポルトガル語表記はすべて原文ママとした。ルビはく>内で囲み、本文中に入力した。言語混交により理解が制限される語彙・表現には注を加え、文末にその意味を記した。

- ⑧ 表記統一がなされていない箇所や誤字もそのまま原文通りに表記している。
例：カフェーズポリス・カフェゾポリス
- ⑨ 読点「、」、並列点「・」、句点「。」は原文ママとした。
- ⑩ 踊り字は、漢字は「々」を原文ママ、一字の「ゝ」と二字以上の「く」は文字の繰り返しに書き換えた。
- ⑪ 原書の判読できない箇所、解読不明な文字は、その字数に相当する「□」を記した。
- ⑫ 縦書きの表を横書きにした際、理解しやすいよう表の体裁を整えた。
- ⑬ 内容理解の一助となるよう、一部に注を加え、文末に解説した。

『曙』1939年10月号第9巻第10号

「曙十月号第九巻第十号」（表紙）「夕焼けと鋤を持つ農民」（イラスト）

曙第九巻第十号目次

巻頭言		一
嵐の中に立つ教育者	サンタフェ ² 高澤興作	二
農民精神	K S 生	三
往け民族の理想に燃えて	松原静也	六
お別れに際して	澤田正	八
日本人会々報		九
サントス ³ 、サンパウロ修学旅行について	林壽雄	一〇
青年会々報		一一
ア市日伯学園 ⁴ 寄付芳名発表	特別会計	
私の書き抜き帳より	安平きみの	一五
昭和十四年度植民地情勢発表	青年会長	一八
紀行文 サルト ⁵ 行き	白帆	二三
詩 希望の春	晴峯	二五
童謡 雨の降る夜 靴	白石保江	二六
曙 俳句	栄伯選	二七
後記	編集部	二九

巻頭言

人は常に突き詰めた心持で生活せず、余裕ある生活を営む必要がある。余裕ある生活とは物質的の意味ではない。心の生活の余裕である。他より圧迫を被る事のない自由の境地を味わう事の出来る心。積極進取の中に知足安分を見出す生活こそ真の余裕ある生活というべきである。

新しい生活に入る為には古い貝殻を破らねばならぬ。貝殻を破る事は心の革命を意味する。そこには失敗もある。しかし断じて失敗を恐れてはならぬ。失敗を恐れるところに向上はなく、失敗を避けるは卑怯である。大胆に心の貝殻を破ってこそ、新しい空気に触れることが出来るのだ。現在の農民生活に最も大切な事である。

論説 嵐の中に立つ教育者 サンタフェ植民地 高澤興作

我等の歩みは刹那々々の完成でなければならぬ。

刹那の完成こそ明日の新しき完成が生まれるのだ。今日の子供等の生命の営みを二年の後に三年の後に・・・と放任されているのを見る。子供は動的である。二年三年後の金科玉条的幻想の日を待たんよりは、今日の生活や生活の中より生まれ生ずる糧を今日興える事が子供等の生命にとって如何に大切であり、尊い事であるか。

真の生命教育は繊細巧妙なる追従横倣の殻の中にあるのではなく、教育者の魂の奥底から生まれ出る生活そのものが期せずして個人教育となり、学校教育となり、教師の裏に溢れる、情熱迸るところに若き天才、英雄の目覚めが生まれるのである。

現在の農村教育非常時に際し、八百千の名論批判よりも、只一人の子をも生かそうとする熱烈献身の実行の中にこそ子供等の幸福は培われて行くのである。

我人は断固として何物にも侵されず蝕まれず、教育的良心の世界に立って、民族育英の原野に一つ一つ手と汗に彩られる開拓の鋏を打ち込んで来た。理想の峯は高く、遙かだが、我人は一修道者として只至誠熱情、純愛の精神をもって、茲一万二千里の南米の荒野に民族青少年の「教育の実験室」として地下百尺の隠れて泉を汲むの心境をもって嵐の中に刹那々々を生かさんとするものである。

論説 農民精神 K・S生

諸君、銃取る戦士に軍人精神ある如く、鋏とり農夫にも農民精神が無ければならない。しかしてこの農民精神により、我等の農村生活を感謝と喜びの生活にしなければならぬ。しかれば、農民精神とは何か。それは自然を愛し、自然に感謝し、しかして我土に生くるの自覚でなければならぬ。

現在農村更生運動の新進指導者として活躍しつつある増田亮一⁶氏がかつてデンマークに学んだ時、ある農家にて、その家の少女が家の廻りに咲き誇る花を指さして「御覧なさい。百姓は良いじゃありませんか。地上最高の収入者ですよ」と言ったので、氏は「地上最高の収入者とは」と反問すると少女は「花を植えればこの様にきれいに咲くし、神は一様にどの花にも蜜源を与えてくれ、そうしてこれを売ると金になるのですから」と言ったそうです。

諸君、何と味わうべき言葉ではないでしょうか。たった一本の花にも自然の愛を感じ、一輪の花にも神への感謝を捧げ、そうして百姓を地上最高の収入者として、農夫たるを絶対の誇りとしているのではありませんか。

かく年端も行かぬ少女達まで農民精神に徹底し、農民を絶対の誇りとしている国民あつてこそ、現在の農業立国として世界に冠たるデンマーク国が生まれた事、我等又当然なりとしてうなづけるのであります。振りかえりて、我等が邦人農村を見よ、そこには同じ農業立国たる日本に生をうけ、農業移民として、渡伯せる日本人中口、農村青年層を見る時、農村の中堅たる青年の徒らに農業をつまらない、農業は卑しいと、自分自身、農民たるを卑下し、農業を忌避せんとする者の、次第に増加しつつある昨今の現象ではないでしょうか。

成る程、働けど働けど我が暮らし楽にならざり、じっと手を見つめると百姓を忌避し、他に職を求めんと焦燥するは、誰しとも一度は陥るところの悩みであります。諸君、宜しく考えて見ましょう。農業は果たしてそんなつまらない、いやらしい物として卑下すべきものでしょうか。仮に考えて見る。もし世界中の人が農業を忌避し、都会へ都会へと集中した時、一体人間はどうなるでしょう。その日から人間はたちまち乾干しになるよりほかありません。それに

反し、世界中の人が農業に親しみ、百姓となっても、決して食うに困ることは絶対にない。百姓は全然、何も無いところより、物を作り出すではありませんか。農業は神業と言ったのと決して過言ではありませんまい。

しかして人間生活の根本要素たる衣食住の原料が概ね農産物にして、人間の生命を保証し得る事実は社会において農業の役割が如何に重大であるかを明瞭に示し、一点の疑う余地もないのであります。

一方文明は開け、科学は進歩し、時代は更に高次の文明への第一歩を進もうとしている今日であります、しかしながら如何なる現代科学の粋を以てしても、誰が一粒の米を作り得ましようか。誰が一輪の花を咲かせ得ましようか。これ皆、農業の力によらねば到底不可能であります。かく觀し来る時災天の下、我等が五体に沁む汗にも、はたまた寒風肌を突く野良の仕事にも何と尊い生命がひそんでいるではありませんか。

この尊い農民の姿を、自ら発見し、体得し、具体化した時、農民精神の実践がなり、農村繁栄の実績はあげられ、一杯の粗飯にさえ、無限の感謝が捧げられ、人生の喜びにひたり、何人にも容喙されぬ立自尊の精神が自然に湧出するのではないのでしょうか。

諸君、我等の農村にはネオンサインの明滅もなく、ジャズとサイレンのざわめきもありません。しかし、我等の美しい憧れは紺碧の色冴ゆる天であり、暗黒い沈黙の大地であります。そして、そこより恵まれる豊かな作物であります。この大自然の中に生をうけ、この尊き天職に携わる我等は今こそその聖なる使命に目覚め、正しき農民精神に立脚し、自らを恃み、自らを信じて、未来の処女地に力強い鋤を打ち下さねばなりません。それが自覚した農村青年の本分であり、確固たる農民精神ではないのでしょうか。

論説 往け、民族の理想燃えて 松原静也

思い起こせば、過ぎしその昔、彼の笠戸丸によって、我等が尊き先駆者達が我民族発展と伯国産業開発の尊き使命を帯びて、渡伯してより星霜ここに三十年、その間、幾多尊き開拓の犠牲者を野辺に送り、今日まで粒粒辛苦として血みどろの移民青史を綴って来たのであります。

開拓の労苦に健康を損ね、不幸沃折した若人、又恐るべき風土病のために中途にして倒れた尊き犠牲者、あるいは最愛の妻を失い、命と頼む夫に先だたれ、子は親に、親は子に死別して、遠い異郷の空によるべなき我身を案じつつも敢然として尊き己が使命にめざめ、襲い来る幾多苦難の嵐を突破しつつ、営々孜々として今日かくも隆盛を見つつある同胞社会の基礎を築いた、それは実に他民族の容易に追隨を許さぬ我が大和民族独特の不屈不撓精神力による汗と血と涙そのものによって綴られた尊くも悲壮な開拓史であったのであります。

まことこの辛苦粒々として三十年、先輩諸氏が汗みどろの苦難を思う時、我等はたとえ如何なる障害に遭遇するとも断固としてその移民史に燦然たる光を加え、その尊き偉業を受け継いで益々発展を期するは、これぞ地下に眠る幾多尊き犠牲者に対する最良の餞であり、現下非常時祖国に対する最大なる御奉公であると固く信じて、疑わぬのであります。しかるに諸君、今日同胞社会の一部を見る時、これら尊き先輩の思義をも忘却して得々として帰亜論を唱えている者の少なくないのは、誠に遺憾であります。その論調とするところは数年前茲伯国に巻き起こった国粋主義の旋風によって、同胞社会に対してあらゆる方面にその弾圧が加わり、昨年ついに外国語の学校教育が禁じられる⁷に至りました。これをもって我が民族発展の前途が絶望でありとするは早計であり、いたずらに「アジア民族はアジアに帰れ」と心にもない理屈をつけてしきりに帰亜論を叫んでいるのであります。諸君!!我等は果たしてこの帰亜論に向かって

賛成出来ましょうか。否、否。我等は今一度先輩諸氏が歩んだ血と涙の茨の道を振りかえる時、どうして軽はずみに賛成出来よう。地下に眠る開拓の霊に対してでも断じて踏み止まらねばならぬ。否、それが祖国日本が肇国の大理想八紘一宇の大精神に則るものであり、ここ伯国の野にその大理想の扶植に努力する事こそ、我等同胞二十万⁸の双肩に負わされた重大なる使命であり、又在外同胞の至すべき祖国愛であります。

諸君、眼を東亜の一角に向けられよ。そこに毅然として新時代の曙光を浴びて起つ祖国日本が世界恒久平和を顕現せんとして八紘一宇の大旆をかざしつつ一大行進を続けております。悠久、二千六百年の燦然たる皇統を有する祖国日本が誇る肇国の大理想は全人類の大調和であり、大和民族こそその使命を果たす選民ではないか。おお、何たる栄光ぞや。

この自覚に起つ時、民族の力は大きい。遠く万里異域の地に一億同胞の一分子として我等の双肩に課せられた使命は重い。この大理想を思う時、如何なる障害も何のその。二十万同胞一人一人がこの民族意識に自覚して、打って一丸となり、真口に万進せんか。世界永遠の平和は建設され、共存共栄の人類不然の大理想は実現されるであろうと信ずるものであります。

お別れに際して 澤田正

青年会員諸君並びに植民者の皆様、長い間お世話になりました。顧みれば、過去十年間、私は先輩諸氏のご指導により、意義ある青年時代を過ごしてきました。然してこのカフェヅポリスは私の第二の故郷として今後もこの様な住み心地より所は容易に見いだせないだろうと信じます。

実にこのカフェヅポリス植民地並びに皆様より得ました数々のご厚情は私の生涯を通じて永遠に私の胸に残ることでしょう。各々の目的によって親しき者とも別れなければならないことは致し方ありませんが、たとえ身は遠く離れ職業は違っても人間的の親しみは変わりません。皆様方には長い方お世話になりましたが、今後も培旧のご指導、ご鞭撻をお願いしておきます。終わりに臨んで、カフェヅポリス植民地の益々発展する様望んで止まない次第であります。

カフェヅポリス日本人会々報（十月の部）

十月二日（月曜）午後三時より日本人会役員会開催、出席十名

左記事項に基き協議す。

- 一、外国人登録⁹に関する件
- 一、当間嗣喜氏外交部長に関する件
- 一、当間、織田、両氏送別会に関する件

外国人登録は連盟日会より、大美、安田両氏に委嘱して料金は一名五十銭¹⁰（内訳印紙三十四銭八百レース、官憲手数料十銭、大美、安田両氏手数料五銭二百レース）、当植民地は四区、五区、八区（十五日）六区十六日、二区七区十七日、一区三区十八日と決定。当日は各自、必要書類持参する様、会員に通知する事。

当間氏後任は早速期間少なきを以って、空席とする事。

当間、織田両氏送別会は八日（日曜）午後二時より開催。会費五銭は六日まで特別会計まで納入の事。尚記念写真をとり額入れとし、両氏に贈る事、百銭位日会会計より支出する事。

報告、前三区在住杉利助氏当地退植の際、金一百銭、前二区在住亀尾千一氏退植の際、金二十銭各々植民地に寄付した。ここに謹みて謝意を表す。右は学校便所建設費となる。

サントス・サンパウロ地方修学旅行について

今般アラサツバ地方学校協議会において、管下各小学校児童の合同修学旅行が決行される事になりました。

昨今、叫ばれる全体主義旋風下に一国文化の心臓に直接触れて認識を更新する意味から、又将来伯国の中堅となるべき二世たちにブラジルの偉大性を知らしめる意味からしても、大変意義ある試みであろうと考えます。

参加児童は原則として、上級生となっていますが青年男女も希望の方は定員までは参加しても差支えありません。

旅行に要する費用は汽車賃の如き 1/4 に割引されるし、十日以間ですから百銭位の概算であります。

もちろん、見学方面の如きは、普通個人では見られないところも多々あります故、この旅行の価値は金銭でかぞえるより以上の効果があるだろうと思います。期日は十二月十六日以後です。

申込は、三区 林壽雄宛

青年会々報（九月の分）

九月四日午後四時より臨時総会を開催す。沢田会長の挨拶を兼ね今回臨時総会を開催した理由を説明し、続いて沢田会長当地をさるため会長辞任の申出有り全員承認す。

続いて中村会計を議長に推薦し役員選挙に移り当選者左の如し、

会長 中村務

副会長 高見久嘉

運動部長 井上藤吉（兼文芸部員）

剣道具系 藤岡弘一

選挙後、中村新会長の挨拶有り。五時半閉会。総会后、役員会を開催す。

協議事項（決定）

一、本月第三日曜頃、剣道練習会を催し、師範にア市¹¹武田氏御願ひし、日程は武田氏の都合による事

一、近々夜学部を再始する事

一、沢田前会長の退会につき送別会を催す事 日時未定

九月十日 曙第九巻第九号発行する

九月十七日 本会々員、佐々木英明君盲腸炎の為、ア市に入院。本会代表御見舞いに行く。

・ア市、武田國助氏を招聘。剣道練習会を開催す。

・日本人会、産業部主催の懇談会を催す。本会にも二三名の参加を産業部長より希望あるも剣道練習のため残念ながら参加のやむなきに至る。

・松原正樹君入会す。

九月二十四日（日曜日）澤田正君の送別会を開催す。

本会結成されて以来、実に八年数ヶ月という長い間、本会の向上発展のため常に尽力され、殊に最近三年の間、会長の重任に携わり、本会苦難時代を見事に乗り切り、本会にとって柱とも口む口が一身上の都合の為、チエテ¹²に去るため、真心こめて盛大なる送別会を催す。今日澤田君、本会に金一封寄付する。

・今日、森垣正利君入会す。

九月二〇日、本会主催の下にシネマの夕を催す。日本キネマ社口“人生の処女航海¹³”“白夜は

明くる¹⁴⁾ 他、ニュース二巻。

九月三〇日、本会事業部長、登春光君の御婚儀に本会へ招待あり。会長、代表して列席す。

十月一日、本会顧問、三隅忠雄¹⁵ 氏に御依頼して欧州戦並びに支那事変の将来について本会主催の下に講演会を催す。（以上）

追加 ア市日伯学園寄付者

芳名発表（略敬称）

第一区（十六戸） 百三十一銭也

一、金 十五銭也	富間嗣喜	一、金 五銭也	仲里武雄
一、金 十五銭也	奥間邑信	一、金 五銭也	佐久本嗣仁
一、金 十五銭也	久手口政亮	一、金 五銭也	赤嶺仁盛
一、金 十五銭也	奥間邑政	一、金 五銭也	内間亀
一、金 十銭也	屋比久猛三	一、金 五銭也	吉田助三郎
一、金 十銭也	外間伊誠	一、金 五銭也	吉岡實助
一、金 十銭也	大城平吉	一、金 三銭也	木村友三郎
一、金 五銭也	新里喜盛	一、金 三銭也	江洲眞珍

第二区（十八戸） 二百三十銭也

一、金 三十銭也	安平盛登	一、金 十銭也	徳木要松
一、金 二十銭也	奥間政正	一、金 十銭也	高見安志
一、金 二十銭也	白石光雄	一、金 十銭也	小林満藏
一、金 二十銭也	松原緑	一、金 十銭也	藤岡政部郎
一、金 二十銭也	森垣郡次郎	一、金 五銭也	澤田栄松
一、金 十五銭也	岡山新一	一、金 五銭也	渡福盛
一、金 十五銭也	藤田嘉勝	一、金 五銭也	伊藤末松
一、金 十銭也	榮榮満	一、金 五銭也	渡成吉
一、金 十銭也	大城永善	一、金 十銭也	屋宮為行

第三区（一三戸） 二百四十七銭也

一、金 五十銭也	織田重喜	一、金 十五銭也	林 壽雄
一、金 三十銭也	杉利助	一、金 十五銭也	福田 貢
一、金 三十銭也	西岡好隆	一、金 十五銭也	林田榮作
一、金 二十銭也	下田無一	一、金 十二銭也	堀田義雄
一、金 十五銭也	田村澄	一、金 十銭也	松本英志
一、金 十五銭也	佐々木新藏	一、金 五銭也	黒田守
一、金 十五銭也	荒木盛元		

第四区（八戸） 百八十七銭也

一、金 百銭也	中村榮	一、金 三銭也	下瀬宗次
一、金 五十銭也	三隅忠雄	一、金 三銭也	坂田數義
一、金 二十銭也	登伊佐美	一、金 三銭也	山内正夫
一、金 六銭也	宮城亀芳	一、金 三銭也	松本留八

第五区（一一戸） 二百五十銭也

一、金 四十銭也	小西熊雄	一、金 五十銭也	岸井弘祐
----------	------	----------	------

一、金 三十銭也	岩井貞吉	一、金 十五銭也	岩本 蔵
一、金 二十五銭也	小方金之助	一、金 十五銭也	徳永光士
一、金 二十銭也	西谷龍四郎	一、金 十五銭也	坪根新左
一、金 二十銭也	河野興一	一、金 十銭也	宮崎蔵
一、金 二十銭也	坂本恒雄		

第六区（二一戸）六十七銭也

一、金 五銭也	佐藤昌八	一、金 二銭也	弓岡龍太郎
一、金 五銭也	大城蒲戸	一、金 二銭也	櫛山秀夫
一、金 五銭也	奥間邑保	一、金 二銭也	種野近太郎
一、金 五銭也	城間加那	一、金 二銭也	宮城永忠
一、金 五銭也	山城粒吉	一、金 二銭也	城間實松
一、金 五銭也	藤原数太	一、金 二銭也	津加山朝安
一、金 五銭也	眞栄城玄三郎	一、金 二銭也	内間富盛
一、金 五銭也	奥間邑信	一、金 二銭也	銘苺盛蒲
一、金 三銭也	金城喜則	一、金 二銭也	銘苺眞清
一、金 二銭也	森本三吾	一、金 二銭也	知念豊一
一、金 二銭也	屋宮辰熊		

第七区（一〇戸）四十三銭也

一、金 十銭也	宮崎喜福	一、金 五銭也	内間次郎
一、金 五銭也	赤嶺徳加	一、金 二銭也	興座池仁
一、金 五銭也	銘苺亀	一、金 二銭也	照屋清松
一、金 五銭也	奥間邑貞	一、金 二銭也	運天先朝
一、金 五銭也	野村富雄	一、金 二銭也	徳田次郎

第八区（七戸）八十三銭也

一、金 三十銭也	古庄口喜	一、金 五銭也	加藤千代熊
一、金 二十銭也	山角久治	一、金 五銭也	石橋初雄
一、金 十銭也	清田藤兵衛	一、金 三銭也	原次郎
一、金 十銭也	平崎守		

杉利助氏送別会会費

寄付者四四人（三区青年会員六名六ドルを含む）

計金 百三十二銭也

バウル¹⁶中央日本人会会費 五〇〇レース

連合日本人会¹⁷会費 五銭レース

徴集戸数 一〇五戸

計金 五七七銭レース也

私の書き抜き帳より（その二） 安井きみ乃

一、牛乳の見分け方

純粋なものか水を割ったものかを見分けるには、よく光った鋼鉄製の布針を牛乳の中に浸けて取り出します。牛乳が針にたくさんついてボタボタ滴り落ちる様なのはよい純粋の乳で、牛乳

が針につかず水の様にさらりと落ちるのは水を割ったものです。尚ほかの混物の疑いがある時には、少量のヨードチンキを入れて見るとよい。混物のある時は変色します。

一、白くも¹⁸に効くバナナ療法

未熟のバナナを半分に切り、白くもの部分に約二、三分間強くこすり付け、一日数回繰返す。初期ならこれを一週間もつづけると大抵治ります。

一、鉄の若返り法

茶碗の糸底で十回前後刃を研ぐ様にこすりますと、新しい鉄の様に切れるようになります。

一、餅を柔らかく貯える法

里芋の皮を剥ぎ、大根おろしで卸し、餅米と一緒につきます。里芋の分量は一升の餅米に里芋二つ、三つで良いでしょう。軽くて美味でもあります。

一、錆釘の抜き方

さびついた釘を抜くには、一度釘の頭を軽く叩いてから抜きますと、簡単に抜けます。もし、ねじ釘の時には焼火箸を釘の頭に当て、釘が温かくなってから抜くと楽に抜けます。

一、仰臥病人の粉薬の飲ませ方

仰向けのまま口を開けさせ、大匙に水を入れ、粉薬を包んだオブラートを其の中に入れ、全部を水に浸し、匙で真直に口中へ落とすと難なく飲みます。

一、鶏の食欲不振には

鶏の餌をやっても食わず、歩くにも元気のない時は、大抵胃弱に陥っている様です。そんな時には胃散を水で溶かしスポイトで飲ませれば、（二八頁へつづく）

「FECULA¹⁹

欧州大戦勃発のため、麦粉が大変暴騰致しました。国策の上からも、個人の台所経済の上からも、麦粉の代用品としてマンジョカ²⁰製粉フエクラの御使用をおすすめ致します。麦粉よりも栄養価値があり、しかも値段はズット御安いのです。

相場（一キロ） 上等 七百レース
 並 五百レース
 ◎フバー²¹ 五百レース
 ◎豆腐の素 一銭レース◎

カフェーズポリス農産加工組合」

昭和十四年度植民地状勢（九月現在）

区別 種類	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	合計	13年度	12年度
家族数	15	22	23	11	11	20	10	7	119	103	107
全人員	75	124	138	63	78	87	66	45	676	578	596
男	36	63	74	34	34	47	31	27	346	289	308
女	39	61	64	29	42	40	35	18	330	289	288
伯国 生児 童	男	18	24	19	9	9	16	15	125	100	103
	女	17	29	18	11	14	15	7	129	115	94

通学 児童	男	4	11	6	4	6	5	6	1	42	46	50
	女	3	10	6	4	4	3	6	1	37	26	26
本年 度出 生時	男	1	1	5	1	1	1	2	1	11	1	11
	女	1	1	1	2	1	3	2	1	10	15	7
所有面積		44.5	144.5	114	52	112	30	35	95	637	651.5	630
開拓面積		43.5	125	105	45	90	29.3	31.5	86.5	524	561	499
雑作地		37	106	31.5	26	72.5	25	30.5	67.5	396	320	437
森林面積		1	19.5	9	6	22	0.5	45	7.5	69.5	1	1
牧場		6.5	106	7	0.5	12	2.5	11	11.5	46.1/4	36.5	32
マンジョ カ植付面 積			4	6	3	5	1	1	1/4	19.1/4	1	1
借地面積		32	16.5	1	1	1	87.5	25	4.5	155.5	152	77
所有コー ヒー樹数		10000	18800	123500	31800	1	契 約 コ ー ヒ ー 2300	1	1	186300	185610	171500
珈琲		350	240	4070	1370		25	1	〃	6055	9635	9750
米		275	200	180	162	410	430	208	113	7977	3962	5281
綿		13250	16500	2245	2230	9770	19210	8810	6720	79005	37650	29894
豆		3	6	71	6	28	59	41	5	219	415	333
ミーリョ (カーロ) 22		18	50	28	18	72	63	25	26	300	171	178
繭口		ナシ	500	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	500	1266	675
コーヒー 千本に付		40	20	37	39	1	1	1	1	41.5	39	29
アル ケー ル ²³ に付 平均	米	50	58	55	51	51	75	70	70	60	33	60
	綿	254	250	180	221	211	275	200	190	248	196	118
	ミ ー リ ョ	5	5	7	6	7	7	8	5	6	5	5
	豆	12	10	1	1	25	35	20	1	13	31	22
馬		7	27	21	5	14	15	8	6	103	83	78
ブーロ ²⁴		22	16	3	2	11	21	10	7	92	62	52
牛		1	1	18	1	8	1	1	1	26	20	22
ポルコ ²⁵		155	150	162	53	135	141	129	76	1001	666	651
山羊		1	4	10	1	1	10	1	1	27	56	35

鶏	265	490	630	260	415	540	355	180	3145	1765	2255
馬車	12	19	11	4	11	15	7	5	84	60	55
自動車	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3

各府県別家族数

沖縄	45	福島	1
鹿児島	12	石川	1
熊本	14	岐阜	1
広島	8	長野	1
長崎	10	鳥取	1
山形	5	佐賀	1
愛媛	3	三重	1
山口	3	香川	1
和歌山	2	青森	1
大分	2	宮崎	1
北海道	2	京都	1
兵庫	2	伯国生	1

新聞及雑誌購読数

日伯協同新聞	34	聖洲新報	14
日本新聞	18	ノロエステ新聞	7
ブラジル時報	21	南米新聞	3
主婦乃友	5	生長の家	1
キング	4	光明思想	1
婦人倶楽部	2	生命の教育	1
日の出	1	道	1
当士	1	日本評論	1
少年クラブ	2	行	1
幼年クラブ	1	植民	1
家の光	3	文化	1
現代	2	文芸春秋	1
子供の園	1	産業のブラジル	3
商工業者の友	1		

紀行文サルト行（3） 白帆

食事を済まして河原に下りて行く。しぶきを含んだ風が寒かった。岩をかむ激流を見ては身震いするような怖さと、またとても勇ましい感じが一瞬私の全身をゆすぶって通りすぎた。発電所の下を流れ出る流れは青黒く泡立つ波。あの流れの橋を渡る時は下を見ると悪魔の手で心臓を握られている様な、なんとも言えぬ様な感じがしたけれど、他は前から予想していた程の恐怖の感じではなく、むしろなつかしく大自然のふところに甘えて見たいような柔い感じだった。

た。

橋を渡って岬のような所をぐるっと廻ると、釣橋があり、十米あまりへだてて小島があり、小島の中に小さなあばら屋が何かの木が知らないけれど、ひょろっとした木にかこまれていた。小島にちょこんとのっ付けた様な小さな家。養分もなく厳かにかじりついた様な木。それらがしぶきに襲われて何か口ぼい感じがした。その小島から二本の丈夫そうなワイヤーがきれいな瀧の小島に渡されていた。そこにちり取りを大きくした様なケーブルカーが所在なさそうにぶら下がっていた。

ケーブルカーのかかっている小島の近くの瀧はとても美しく、ある人は真っ白な花びらを落とすようだと言い、また粉をピネーラ²⁶でふるうようだとも言い、一寸形容に困る。私達の立っていた處は発電所の裏口で澱粉の上澄の様な水が櫛の歯の様なものからゴーゴーと流れ落ち、その岩底にあたって砕け飛び、自身を泡立てた上にピポーカ²⁷をぶち播いたようで美しい。真っ白い羽毛で造られたカーマ²⁸の様にも見えて、“ちょっとあの上に寝ころんでみたいね”と光ちゃんにささやくと、“うん”とにっこりした。暫くしてからまた橋を渡り、もとの河原へかえる。そして思い出にと、赤い小石や飴色のや、丸いの、色々なのを見つけてはハンカチに包みこむ。“一つでもダイヤが拾えるといいけどなあ”と言うと、Tさんに“そんな欲な事を言うもんじゃない”と笑われた。河下へ拾って行くうちに“こんな所にカフェ²⁹の様なまあるい黒い石がある”と拾い上げたら、それは山羊のうんこだった。こんな所にも山羊がいるのかと不思議に思ったり、腹が立ったり。光ちゃんが転げんばかりに笑う。外の人もゲラゲラ笑う。私も皆と笑い出した。“姉さんここにもそれとおんなじ石があるよ”とずいぶん冷やかされ、何時までも笑われた。

小石を拾いながら歩きにくい河原を河下の鉄橋の方へ歩いて行く橋の袂に小さなお菓子屋がある。そこで樽の氷の様に冷たい水を飲む。裏で何か変な啼き声がするので覗いてみると、ちょうど山羊位の大きな鹿がつかまえていて恐怖と傷の痛みにバタバタのたうちまわっていた。どうして捕らわれたかとその店の主人に聞くと、よく肥った小父さん（勿論外人³⁰）がニコニコしながら“この犬がつかまえたよ”と傍のシェパードの様な犬を指した。犬は誇らしげに鹿のまわりをぐるぐるして臭いを嗅いだり、主人の顔を見ては尾を振っていた。

また水を飲んで店を出て、橋をぶらぶら歩く。橋の中央に立って河上を眺めると、白く泡立つ波、うず巻く流れ、ずっと河上は銀板をのみで粗けずりした様な…折からの日光を浴びて、きらきら光っていた。

河上は随分広いらしいけれど、河下はとても狭い。河上の何分の一か。

暫く橋上をぶらぶらしていると、“向こうの橋の下に大きな蛇の皮があるのよ”と文ちゃんが言ってきたので、急いで行ってみると、橋の裏へ大きな蛇の皮がのたくっていた。日本の女の人の帯よりも広がったかわからない。こげ茶色に点々と模様が入っていて、これが帯ならば濫好みの婦人の好みそうなもの。（以下次号）

詩 希望乃春 晴峯

さわやかに

陽は出たり希望の朝

そよぐ風躍る胸

緑芽をふく大地の春だ

若き日の胸は澁澗

いざ友よ行こう希望の春だ

うららかに
輝く春の陽を見つや君
空澄みて躍るは心
陽炎もえる大地の春だ
若き日の生命は燃えて
いざ友よ行こう希望の春だ

たからかに
吾等の春を讃へずや君
胸張りて仰ぐ白雲
希望は燃えて大地の春だ
若き日のみどりの望み
いざ友よ行こう希望の春だ

童謡 雨の降る夜 白石保江 「花」（イラスト）

雨の降る夜はきれいだな
裏の通りの薔薇の花
雨にぬれて光ってて
家の灯りがうつってた

雨の降る夜は美しい
うつる灯りをしていると
なんだか夢を見ているよう
きれいに薔薇が光ってた

童謡 靴 白石保江
カタカタカタと靴が鳴る
調子をそろえて一二三
学校へ行く時帰る時
摘草するにも遊ぶにも
いつでもカタカタ靴が鳴る

嬉しい時にはつま先で
くるり廻ってカッタタン
カタカタカタと靴が鳴る
お靴のうらの金が鳴る

曙俳句（十月集） 中村栄伯選 「木」（イラスト）

「若芽」「山焼き」

天位 駒止めて憩ふ若芽に風薫る 晴峯
地位 陽を覆ふて煙雲北へ流れけり 晴峯
人位 水温む小川の畔り若芽伸ぶ 暁風

五客

粧ひも春めき街路のみどり立つ 晴峯
若駒の嘶く牧場若芽伸ぶ 暁風
年毎に遠ざかり行く山焼き T・I 生
拓人の征服感や山を焼く 晴峯
枯れたかと思ひし大樹若芽出し 清月

佳作

旅人も月日早しと若芽を見 清月
山焼きや月の光も赤く見い T・I
初春や若芽は深し鳥の声 清月
月の出の光さへざる若芽かな 清月
煙立ちて灰色に陽の陰りけり 晴峯
枯草も色やはらかに若芽いづ T・I
山焼きや飛び火をふせぐ隣り山 清月
焼あとの夜の眺めや街路燈 清月
山焼きに追ひ立てられし親子鳥 T・I
山焼きや足止めて見ん旅の人 清月
山焼きてやれ安心と酒を盛る 清月
山々も昨日口受る若芽かふ 清月
山焼き終へて待つ種蒔もいく日 T・I
播き付けて農夫いそがし若芽時 清月
大螢若芽の間通りけり 清月
蟻切りし庭のせんだん若芽出し 清月
野の光浴びつ山焼き見つ晝餉 T・I
夕暮や若芽の陰を猿の群 清月
老木も處々に若芽出し 清月
山焼きに身をかきしけん山の猿 清月

俳句募集！！（十一月集）選者 中村栄伯氏

課題

一、暑さ

一、プランタ（植付け） 文芸部アテ

〆切 十一月十一日

一六頁より

→二、三時間で回復します。多少重症の時でも朝夕二回注入すれば長引いても二、三日で治り

ます。

一、万年筆の漏れるのは

万年筆のインクのもれるのは着物やその他に汚点がついたりして困るものですが、ねじの所にポマートを塗りこんでしめますと、ピッタリ止まります。良質のインクを続けて使用する事はどなたも御存じと思いますが、使用人もあまりかえない方がよいとの事です。

後記

イペーの花散り、樹々の若芽も一雨毎にぐんぐん伸びる。ブラジルの春も今正にたけなはならんとする時、曙十月号を皆様の座右に呈します。

本号の特に自負する所は、青年諸君の意気を盛る事の出来た事です。希くは今後永久にこの意気を持続されん事を。

前会長、澤田正氏が輝かしき実社会への第一歩に当地を去られるにあたり、お別れの言葉を戴きました。氏の前途益に多幸ならん事を心からお祈りする次第であります。

いよいよ蒔付の時期も追って参りました。十四年度の植民地状勢を発表しておきました。乞う御一覽。しかして次農年にはよりよき数字を示される様、皆様の御健闘を祈ります。尚、調査に際してご尽力くださった幹事諸君へ厚くお礼申し上げます。

十一月号の〆切は十一月四日であります。

【注】

- 1 Colônia Cafesopolis、カフェーズポリス植民地はサンパウロ市から約 500 キロ離れた、サンパウロ州の北西地域に位置し、1908 年に開設されたアラサツバ市から 4 キロの地点に、1929 年に形成された。本稿の原資料である会報誌の記載が「カフェーズポリス植民地」となっているため、その通り使用する。他文献では「カフェゾポリス」「カフェゾーポリス」、「入植地」「移住地」などの記載もあるが、ここでは「カフェーズポリス」「植民地」と統一する。ポルトガル語表記においても、Cafesópolis, Cafezópolis, Cafesopolis, Cafezopolis と文献によって異なるが、会報誌の表紙に押印されている青年会印が“ASSOCIAÇÃO DOS MOÇOS DE CAFESOPOLIS”となっており、本稿でも原文通り Cafesopolis を使用する。
- 2 Santa Fé、サンパウロ州に近いパラナ州の市であり、1920 年代後半から植民地を受入れ、カフェーズポリス植民地から約 300 キロ南に位置している。
- 3 Santos はサンパウロ州の市で、州都から約 70 キロ離れた沿岸部に位置する。移民船到着港であるサントス港を有する。日本人移民と関わりが深いことから、1988 年 5 月 3 日付第 394 令で日本人移民の日を制定した。
- 4 アラサツバ学園のことだと思われる。1937 年 5 月に 20 の団体、740 家族を擁するアラサツバ連盟日本人会ができ、会の事業として建設したのがアラサツバ学園である。それまでアラサツバ市内で有志により行なわれていた日本語教育が集中統一された。この時代が日本語教育の全盛期とされ、各地植民地で数多くの日本語学校が開設された。
- 5 Salto はサンパウロ州の市で、州都から約 100 キロ、カフェーズポリス植民地から約 400 キロの地点にあり、1870 年以降、繊維業を中心に近代化が進んだ。現在は州政府公認の観光・リゾート都市として名を馳せている。
- 6 増田亮一は農業経営研究家で「農村改良を以て終生の使命」としており、昭和 6 年 6 月か

ら半年ほどデンマークに滞在して農村建設の方法を体験的に考察し、帰国後は農村更生と農村向上のために努力した。昭和10年に『デンマークで掴んだ農村更生の秘訣』を著した。
（大橋1974：571）

- 7 1938年5月4日付大統領令第406号により、農村の学校におけるポルトガル語以外での科目教授禁止、14歳未満への外国語教授禁止、ポルトガル語記載以外の小学校教科書使用禁止、農村における外国語出版物禁止などの政策が展開された。その後、1938年12月13日付大統領令第948号により、農村地における日本語学校の閉鎖が余儀なくされた。
- 8 最初の移民船で781名の日本人がブラジルに出発してから、戦前に約19万人の日本人移民がブラジルに渡った（IBGE 2008:151）。
- 9 「外国人登録」（Registro Nacional de Estrangeiros）は、1938年5月4日付第406号大統領令により開始され、ブラジル国籍保持者以外の18才以上60才以下の全ての外国人が登録することとなった。2017年以降「国家移住登録証」（Carteira de Registro Nacional Migratório）と名称が変わった。
- 10 1939年時点のブラジルの貨幣は「リアル・レイス（単・複）」および「コント・コントス（単・複）（百万レイス）」であり、当時はミル・レイス（千レイス）を単位として使用していたため、例えば十ミルの場合、日本語で「十千」となるため、「千」を「銭」と変えて「十銭」のように使用していると考えられる。
- 11 アラサツバ市。
- 12 Tietêはサンパウロ州の市で、州都から約120キロの地点に位置する。ブラジル拓殖組合の創設になったのがこのチエテ移住地である（半田1970：426）。
- 13 1932年に松竹キネマが制作した白黒サウンド版映画。
- 14 1932年に松竹キネマが制作した白黒無声映画。
- 15 『アラサツバ50年史』より：植民地開拓に功労があり、早大出身元福岡日報主筆（31p）。早稲田大学政治経済学科2年生の時に、学科名物であった擬国会の第十三期早稲田議会で「満州経営に関する建議案」（明治38年3月26日）を提出している。明治39年には学科生仲間と有志を勧誘し、500名の会員を以て「早稲田新聞研究会」を発足した。
- 16 Bauruはサンパウロ州北西部ノロエステ沿線上に位置し、1927年に領事館が設置された。
- 17 アラサツバ連盟日本人会のことだと思われる。会ができた当時、カフェーズポリス植民地は連盟所属団体の中で最も多い130家族という会員数を持っていた。
- 18 頭部浅在性白癬（はくせん）のことである。
- 19 fécula、デンプン。
- 20 mandioca、キャッサバ。
- 21 fubá、トウモロコシ粉。
- 22 milho、トウモロコシ。Carro（カーロ）は重量単位であり、トラックの荷台（carro 車）を使用していたことに由来する。1カーロは800キロに相当する。
- 23 アルケール（alqueire）は面積の単位で、ブラジルでは地域によって大きさが異なる。本資料はサンパウロ州であるため、「サンパウロ州のアルケール（alqueire paulista）」だと考えられ、2.42ヘクタール、つまり24,200平方メートルになる。現在においても、ヘクタールと同様農地面積を表すために使用されている。
- 24 burro、ロバ。
- 25 porco、豚。

- 26 peneira、ふるい。
- 27 pipoca、ポップコーン。
- 28 cama、ベッド。
- 29 café、コーヒー。
- 30 ブラジルの日本人・日系社会において非日系人を総称して「外人」と呼ぶ。半田知雄『ブラジル日系人が歩んだ道 移民の生活の歴史』の中でも、「日本人が植民地をつくった動機の一つは「外人に気がねなく暮らすため」（半田 1970：303）で、ブラジルの習慣の一部も「外人」にわらわれないようにあらためた（半田 1970：312）」など、「外人」の表記が随所に見られる。

【参考文献】

- IBGE. 2008. *Resistência & integração: 100 anos de imigração japonesa no Brasil*. IBGE.
- 野中モニカ (2018) 「戦前のカフェーゾポリス植民地と会報誌『曙』—ブラジルのナショナリズム政策から日本語教育中止まで—」, 『アメリカス研究』第23号, pp. 99-118, 天理アメリカス学会
- 野中モニカ (2019) 「翻刻『曙』第9巻第1号』(全文)」, 『アメリカス研究』第24号, pp.115-136, 天理アメリカス学会
- 野中モニカ (2020) 「ブラジルにおける日本語会報誌『曙』1940年8月号第10巻第4号』(全文)」『天理大学学報』第72巻第1号(通巻第255輯), pp.105-127, 天理大学
- 汎アラサツバ日本人会 (1958) 『アラサツバ五十年史附管内日本人名簿』汎アラサツバ日本人会
- 半田知雄 (1970) 『ブラジル日系人が歩んだ道 移民の生活の歴史』サンパウロ人文科学研究所
ブラジルに於ける日本人発展史刊行委員会 (1953) 『ブラジルに於ける日本人発展史下巻 紀元二千六百年記念』ブラジルに於ける日本人発展史刊行会

【参考ウェブサイト】

- Milho para os diferentes níveis tecnológicos. <https://www.feis.unesp.br/Home/departamentos/biologiaezootecnia/pg13.1-colheita-armazenamento.pdf> (2020年9月23日アクセス)
- Prefeitura da Estância Turística de Salto. <https://salto.sp.gov.br/> (2020年9月20日アクセス)
- Prefeitura de Santos. <https://www.santos.sp.gov.br/> (2020年9月20日アクセス)
- Prefeitura do Município de Tietê. <http://www.tiete.sp.gov.br/> > (2020年9月20日アクセス)
- Prefeitura Municipal de Santa Fé. <http://www.santafe.pr.gov.br/> > (2020年9月20日アクセス)
- 大橋博明 (1974) 「日本における農本主義教育論の研究 (III) —いわゆる国民高等学校教育について—」中京大学教養論集第15巻第3号, pp.561-596. <https://core.ac.uk/download/pdf/267842710.pdf> (2020年9月20日アクセス)
- 早稲田大学百年史. <https://chronicle100.waseda.jp/index.php?top> (2020年9月25日アクセス)